

SDGs未来都市等進捗評価シート

2020年度選定

東京都豊島区

2023年9月

SDGs未来都市計画名

東京都豊島区 SDGs 未来都市計画
消滅可能性都市からの脱却 ～持続して発展する「国際アート・カルチャー都市」への挑戦～

自治体SDGsモデル事業

国際アート・カルチャー都市実現戦略 推進事業

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

(1) 計画タイトル

東京都豊島区 SDGs 未来都市計画
消滅可能性都市からの脱却～持続して発展する「国際アート・カルチャー都市」への挑戦～

(2) 2030年のあるべき姿

本区が目指す持続発展可能な具体的都市像「国際アート・カルチャー都市構想」を実現する。
本構想は、誰もが多様な文化を享受し、文化の持つ「想像力」と「想像力」で世界中の人を魅了し、人と産業を惹き付ける好循環が生まれるまちを将来像として描いている。

(3) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール



(4) 2030年のあるべき姿の実現に向けた取組の達成状況

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2022年（現状値）	2030年（目標値）	達成度（%）
1	フェスティバル/トーキョーへの来場者数【8.9】	2019年度 39,147 人	2020年度 32,135 人	2030年 85,000 人	-15%
2	池袋副都心区域内の歩行者の滞在時間【9.1】	2019年 116 分/人・日	現状では左記が最新データ	2030年 130 分/人・日	-
3	池袋駅周辺の歩行者数【11.7】	2017年 112,400 人/12h	現状では左記が最新データ	2030年 130,400 人/12h	-
4	今後着手が見込まれる民間再開発事業投資額【8.3】	2019年度 0 円	2020年 1,113 億円	2030年 5,000 億円	22%
5	自立して活動を展開するエリアマネジメント団体数【11.7】	2020年 1 団体	2022年 2 団体	2030年 6 団体	0%
6	地域に愛着を感じている区民の割合【11.7】	2019年 79.4 %	2022年 84.6 %	2030年 85 %	93%
7	WEB等を通して発信する、多言語での生活基本情報（転出入手続きやゴミの出し方等）について【16.6】	2019年度 10 テーマ	2022年度 10 テーマ	2030年 30 テーマ	0%
8	区内の交通事故発生件数【3.6】	2019年 549 件	2022年 561 件	2030年 500 件以下	-24%

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2022年（現状値）	2030年（目標値）	達成度（%）
9	区民ひろばの安全・安心学習プログラム数と延べ参加人数【11.7】	2019年度 2,306 回	2022年 3,720 回	2030年 2,500 回	729%
	区民ひろばの安全・安心学習プログラム数と延べ参加人数【11.7】	2019年度 44,620 人	2022年 39,623 人	2030年 50,000 人	-92%
10	セーフコミュニティの活動の認知度（考え方や活動を知っている/言葉は聞いたことがある）【17.7】	2019年度 32.5 %	2021年 35.3 %	2030年 50 %	16%
11	〇〇（様々なこと）ができる公園整備数【11.7】	2020年3月 2 か所	2022年 19 か所	2030年 22 か所	85%
12	区内の温室効果ガス排出量の削減（千t-CO2）【11.7、13.2】	2015年度 1,647 千 t	2020年度 1,437 千 t	2030年 1,102 千 t	38%

(5) 「2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

- ・本区が目指す「国際アート・カルチャー都市構想」は「まち全体が舞台の誰もが主役になれる劇場都市」を掲げ、文化を基軸に都市を再生させ、関わる全ての人のまちへの誇りと愛着を醸成し、人が主役となって次代へ継承していくことを目指している。
- ・本区は2022年に豊島区制施行90周年を迎え、区民や地域団体、そして企業の皆様と一緒にSDGs推進をしていく気運を醸成した。2023年より、豊島区のみちをもっとよくなることを「企業」と「行政」で考えて動く官と民が連携した豊島区ならではの新しいプラットフォーム「チームとしま」を発足。
- ・今後は企業の皆様と一緒に地域課題解決に向けて、企業と区が定期的に意見交換を行い、官民の連携を進めている。
- ・No1、4、12は、2020年度数値が最新。No21は、2021年度数値が最新。No1は2021年より東京芸術祭と統合され今後数値が取れず。
- ・No.1、9は、コロナ禍において集約を目的とする指標の達成が困難であった。
- ・No.5、7、8については、原因を分析し、対策を検討する。
- ・No.5、7の目標達成に向け、チームとしまの活動を通して、団体の新規開拓や多言語での情報発信の新テーマを検討していく。
- ・No.8の目標達成に向け、引き続きセーフコミュニティ活動を通して、地域住民・行政・地域関係団体など地域社会が協働して「安全・安心」なまちづくりを進めていく。

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2020年～2022年

(1) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2020年実績	2021年実績	2022年実績	2022年目標値	達成度(%)
1	多様な文化事業の実施（文化を軸とした発信力の強化、来街者の増大に向けて）	池袋副都心区域内の歩行者の滞在時間	2019年 116 分/人・日	現状では左記が最新データ	現状では左記が最新データ	現状では左記が最新データ	2022年 120 分/人・日	—
2	安全で快適な歩行者空間の拡大（賑わいと人の流れの、まちへの拡大に向けて）	池袋駅周辺の歩行者数	2017年 112,400 人/12h	現状では左記が最新データ	現状では左記が最新データ	現状では左記が最新データ	2022年 115,100 分/人・日	—
3	公民連携による子育て支援等の推進（子どもと女性にやさしいまちづくりに向けて）	待機児童数ゼロ	2019年4月 16 人	2020年4月 0 人	2021年4月 0 人	2022年4月 0 人	2022年 0 人	100%
4	公園等の効果的な整備・活用・ネットワークの構築（地域のニーズに応じた公園整備、防災対策に向けて）	区内公園の占用料および使用料	2019年度 55,855 千円/年	2020年度 65,540 千円/年	2021年度 74,907 千円/年	2022年度 91,737 千円/年	2022年度 60,000 千円/年	865%

(2) 自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

「国際アート・カルチャー都市構想」は、本区が2014年に指摘を受けた「消滅可能性都市」からの脱却を図るために描かれた。本構想に掲げた「誰もが主役になれるまち」は、SDGsが掲げる「誰一人取り残さない社会」と軌を一にするものである。

昨年、豊島区制施行90周年を機に発足した企業実行委員会に約280社の企業が参加。企業実行委員会が主体的にSDGs推進セミナーを開催し、企業同士の横のつながりを広げてきた。本活動を継続的な活動とするために、今年度豊島区のみならず「企業」と「行政」で考えて動く官と民が連携した豊島区ならではの新しいプラットフォーム「チームとしま」を発足。今後100周年に向けて、チームとしまと連携したSDGsの推進を実施していく。

(3) 「自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

- ・本区は一貫して文化を基軸にしたまちづくりを進めてきた。しかし、3か年計画である自治体SDGsの推進に資する取組に新型コロナウイルス感染症が与えた影響は大きい。現計画はコロナ禍前に立てたものであり、今後はwithコロナの観点を踏まえながら指標の変更等を検討していく必要がある。
- ・(1)指標No.1,2について、池袋周辺の歩行者数や滞在時間を増やしていくために、行政だけではなく、チームとしまの活動中で企業としっかり連携をして、まちづくりを進めていく。しかし、「池袋副都心区域内の歩行者の滞在時間」、「池袋駅周辺の歩行者数」については、毎年調査をしている指標ではないため、他の指標を検討する必要がある。

(4) 有識者からの取組に対する評価

- ・国際と芸術と文化を基軸にしたまちづくりはユニークで、SDGs未来都市と呼ぶにふさわしい大きな成果を挙げていることは高く評価される。SDGsの視点から、この運動の枠組みを一層拡大していくことが期待される。
- ・芸術文化とSDGsの推進は、他の地域や企業にも大いに参考になるところ、今後は具体的事業を通じてトライアンドエラーを重ねながら、より効果的かつ影響力のある芸術文化とSDGsの姿を描き出し、これを広げていくことを検討していくことが大事になると思料する。
- ・イベント関連の指標が悪いのは新型コロナウイルス感染症の影響でやむを得ないと思料する。
- ・交通事故発生件数が増えており、その要因を精査して、必要に応じて適切な対応が望まれる。
- ・指標の達成度の改善に向けた検討が必要であると思料する。

2. 自治体SDGsモデル事業

(1) モデル事業名

国際アート・カルチャー都市実現戦略 推進事業

(2) モデル事業の概要

「国際アート・カルチャー都市構想」は東京オリンピック・パラリンピックの開催が予定されていた2020年を中間目標とし、「文化戦略」「空間戦略」「国際戦略」の3つの戦略で実現への道すじを描いた。23のまちづくりプロジェクトの推進などの集中投資によって、劇場都市の舞台は完成をむかえ、まちは大きな変貌を遂げた。今後、SDGsの理念も取り込みながら「ひと」が主役の持続発展可能な都市の実現を目指す。

(3) 三側面ごとの取組の達成状況

取組名	取組内容	指標名	当初値	2020年実績	2021年実績	2022年実績	2022年目標値	達成度(%)	
①-1 国際的な舞台芸術祭「フェスティバル・トーキョー」の実施 ①-2 池袋駅周辺4公園の活用（文化イベントの実施等） ①-3 東アジア文化都市の交流都市（中国・西安市、韓国・仁川広域市）との文化交流事業 ①-4 公民連携により、まちづくり組織の活動を展開	賑わい・回遊性の拡大や、歩きたくなるまちづくりといった、公民連携による魅力ある都市空間づくり	池袋副都心区域内の歩行者の滞在時間	2019年 116 分/人・日	現状では左記が最新データ		現状では左記が最新データ		2022年 120 分/人・日	-
		4公園における自立しているエリアマネジメント団体数	2020年 1 団体	2020年 1 団体	2021年 1 団体	2022年 2 団体	2022年 3 団体	50%	
②-1 総合高齢社会対策の推進 ②-2 多文化共生の推進 ②-3 子どもの参加（区内保育施設IKEBUS活用事業） ②-4 池袋駅周辺4公園による安心の創出 ②-5 インクルーシブ公園の整備と園外保育の充実	高齢者の外出促進や、子どもの遊び場など、誰もが安心して楽しめる身近な居場所づくり	0~5歳の人口	2020年1月 11,673 件	2021年1月 11,440 件	2022年1月 11,033 件	2023年1月 10,973	2022年 12,680 件	-69%	
		インクルーシブ公園の整備件数	2020年3月 0 件	2021年3月 3 件	2021年3月 8 件	2023年3月 10 件	2022年 5 件	200%	
③-1 グリーンインフラの拡充 ③-2 低炭素地域社会づくり ③-3 協働による環境都市づくり	既存公園の有効活用や、新技術活用、協働による工夫に取り組んでいる	区内の温室効果ガス排出量の削減（千t-CO2）	2015年度 1,647 千t	2018年度 1,580 千t	2019年度 1,510 千t	2022年度 1,437 千t	2022年度 1,431 千t	97%	

(4) 「三側面ごとの取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

- ・17のゴールと169のターゲットを設定するSDGsの領域は幅広く、区政においては業務全般がSDGsにつながるものと考えている。
- ・豊島区基本計画において全ての業務を17のゴールに紐づけることで、全庁横断的な情報共有や連携調整を図り、文化・教育・福祉・環境など多分野での事業へ展開を進めてきた。
- ・令和4年度より、毎週実施しているファーマーズマーケットにて、全部局が交替わりでSDGsブースを展開。
- ・行政の各部署よりSDGsの取組みを紹介し、地域の方々へ多分野の情報を発信している。また、各部署がSDGsブースを展開することで、職員が自分事としてとらえ今後のSDGs推進を行政全体で展開できるよう努めている。
- ・環境面では令和3年2月にゼロカーボンシティを宣言しているが、区の環境施策をさらに加速させていくため、「2050としまゼロカーボン戦略」を策定。
- ・令和5年度には、区内でSDGsの進捗状況調査を実施し、取組みが進んでいない事業について、組織横断的に対応ができるよう連携を進めている。
- ・0~5歳の人口が目標値を下回っていることについて、子育て施策の充実とその効果的な発信により、改善を図っていく。

2. 自治体SDGsモデル事業（三側面をつなぐ統合的取組）

(1) 三側面をつなぐ統合的取組名

公民連携による都市空間活用プロジェクト

(2) 三側面をつなぐ統合的取組の概要

本区が目指す「ひと」が主役の「SDGs未来都市」は、巨大ターミナルである池袋駅を中心とした水平開発の広がり「ひと」を「まち」へと呼び込むウォークアブルなまちづくりを目指している。池袋駅周辺の特色ある4つの公園とそれをつなぐ真っ赤な電気バス「IKEBUS」をモデル事業に据え、「SDGs未来都市」の推進を先導し、池袋の価値を向上させることで、豊島区全体の価値が向上していく。

(3) 三側面をつなぐ統合的取組による相乗効果

経済⇔環境	経済⇔社会	社会⇔環境
【経済→環境】 まちの賑わいが生む収益により、公園等の環境整備 【環境→経済】 公園整備や「IKEBUS」運行により、来街者や定住者が増加	【経済→社会】 まちの賑わいにより、新たな文化が誕生 【社会→経済】 文化の魅力発信により、来街者が増加	【社会→環境】 グリーンローモビリティにより、交通環境を整備 【環境→社会】 緑あふれる環境整備により、定住意欲の向上

(4) 三側面をつなぐ統合的取組の達成状況

No	指標名	当初値	2020年実績	2021年実績	2022年実績	2022年目標値	達成率 (%)
1	【経済→環境】 公園利用者数（対象3公園）※平日	2020年2月平日 6千人/日	2020年度 5.6千人/日	2020年度平日 5.5千人/日	2022年度平日 8千人/日	2022年度平日 6.6千人/日	333%
	【経済→環境】 公園利用者数（対象3公園）※休日	2020年2月休日 12千人/日	2020年度 11.8千人/日	2020年度休日 11.8千人/日	2022年度休日 17千人/日	2022年度休日 13.2千人/日	416%
	【経済→環境】 区内公園の占用料および使用料	2019年度 55,855千円	2019年度 65,540千円	2019年度 74,907千円	2022年度 91,737千円	2022年度 60,000千円	865%
2	【環境→経済】 池袋駅周辺の歩行者数	2019年 112,400人/12h	現状では左記が最新データ	現状では左記が最新データ	現状では左記が最新データ	2022年 115,100人/12h	-
	【環境→経済】池袋副都心区域内の歩行者の滞在時間	2019年 116分/人・日	現状では左記が最新データ	現状では左記が最新データ	現状では左記が最新データ	2022年 120分/人・日	-
3	【経済→社会】 「多様な文化芸術活動が展開され、良質な文化芸術に接する機会が多い」と考える区民の割合	2019年度 40.6%	2020年度 42.5%	2021年度 42.2%	2022年度 41.7%	2022年 45.0%	25%
4	【社会→経済】 区の新設法人数（四半期平均）	2019年度 375社	2020年 352社	2021年 341社	2022年 330社	2022年 400社	-180%
5	【社会→環境】 IKEBUS利用者数	2020年2月 13,000人	2020年（一月平均） 7,050人	2021年（一月平均） 8,741人	2022年（一月平均） 9,300人	2022年（一月平均） 22,500人	-39%
6	【環境→社会】 住み続けたいと考える区民の割合	2019年度 82.2%	2020年度 80.9%	2021年度 83.1%	2022年度 82.4%	2022年 85.0%	7%

(5) 自律的好循環の形成に向けた取組状況

「豊島区国際アート・カルチャー特命大使／SDGs特命大使」をはじめ、区民・区内団体・区内企業がこのまちに魅力を感じるファンベースの展開を図っている。区内外の企業や団体等への徹底したプロモーションを図り、あらゆる投資機会や参画機会を受け止め、関係機関との連携や調整等の役割を果たしている。

(6) 「三側面をつなぐ統合的取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

- ・「グローバルリング」では野外クラシックコンサート、イク・サンパークでは毎週ファーマーズマーケットや子どもを対象としたイベント開催。
- ・4つの公園を軸に様々なイベント等を実施することで、回遊性を高め、更なるまちの魅力向上につなげていく。
- ・一方、地域住民等と直接の意見交換は実施が出来ず、地域活動組織の拡充には至っていない。今後の社会情勢を見据えながら住民参画事業の再開を検討していく。
- ・(4)指標No.4について、区の新設法人数が目標値を下回ったことについては、コロナ禍での経済活動の停滞が原因と思われる。今後法人が豊島区で開設できるよう魅力を発信する。
- ・(4)指標No.5について、IKEBUS利用者数が目標値を下回ったことについては、コロナ禍で減便していたことが原因である。今後はイクバスが運行している4つの公園でファミリー層向けのイベントを積極的に展開することで、利用者数を狙う。

2. 自治体SDGsモデル事業（三側面をつなぐ統合的取組）

（7）有識者からの取組に対する評価

- ・着実に進捗がみられる点で評価できる。今後はモデル事業を横展開していくことに注力していくことが望まれる。
- ・モデルと呼ぶにふさわしい具体的成果が達成されていると評価できる。